

黒ダネ台きゅうりのつる割病について

1 試験のねらい

きゅうりハウス栽培農家において、かぼちゃの黒ダネを台木としたきゅうりに急性萎ちょうする症状が発生したので、その原因を究明した。

2 試験方法

病原菌の分離は、台木根部、台木導管部、接木部、穂木部の各部位を常法により行った。菌糸の生育温度調査では、シャーレに培地を流し込みその中心に菌そうを静置して、3℃～40℃の14段階で培養した(図-1)。病原性試験では、培養した菌を滅菌土に混和しうり類は3～5葉期、トマトは本葉5～6枚期、いちごは6枚程度、カーネーションは草丈約10cm、シクラメンは15葉期の苗にそれぞれ接種し、14日後に調査した(表-1)。なお、菌糸の生育温度調査及び病原性調査には比較対照菌として、ゆうがおつる割病のフザリウム・オキシスポラム・ラゲナリア菌を用いた。

3 試験結果及び考察

病原菌の部位別分離状況は、台木の黒ダネかぼちゃからはよく分離されたが、穂木のきゅうりからは全く分離されず、これから分離された菌はほとんどがフザリウム菌であった。菌糸の生育温度調査では、6℃で菌糸の生育がみられ、最適温度は28℃であったが、38℃では生育しなかった。病原性試験では、ゆうがおの2品種及びかぼちゃの黒ダネに病原性が認められ、他の品種では認められなかった。

このように、黒ダネ台きゅうり萎ちょう症の病原菌とゆうがおつる割病のフザリウム菌とを比較検討したところ、菌の形態、生育温度、病原性などでよく一致したので、本病菌がフザリウム・オキシスポラム・ラゲナリア菌によるものと判明した。なお、ゆうがおつる割病菌は、近年発生が増えているのでゆうがおの栽培地帯では注意が必要である。

4 成果の要約

かぼちゃ黒ダネを台木としたきゅうりの急性萎ちょう症は、フザリウム・オキシスポラム・ラゲナリア菌によって生じる、かぼちゃ黒ダネのつる割病が原因であった。現在発生の認められているほ場及びゆうがお栽培地帯では、今後の発生に十分注意が必要である。

(担当者 病理昆虫部 小林光雄・木嶋利男)

表-1 各種作物に対する病原性

供試植物名	フザリウム・オキシスポラム ラゲナリア	分離菌株
ゆうがお	+	+
しもつけ白	+	+
しもつけ青	+	+
かぼちゃ	+	+
黒ダネ	+	+
新土佐	-	-
白菊座	-	-
きゅうり	-	-
王金半促成	-	-
トマト	-	-
東光 K	-	-
瑞秀	-	-
なす	-	-
弁慶	-	-
ピーマン	-	-
ニューエース	-	-
へちま	-	-
いちご	-	-
ダナ-	-	-
カーネーション	-	-
ノラ	-	-
シクラメン	-	-
バーバーク	-	-

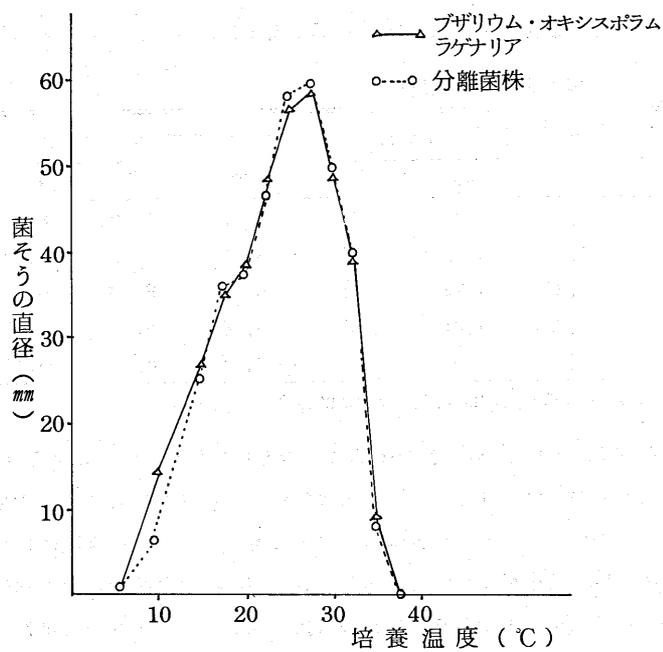


図-1 培養温度と菌系の発育との関係